



【美山と林業】



ひとは山を育て守る。山はひとに木材を授ける。そんな人と山との会話を成り立たせてきた林業について、日ごろ、山にたずさわる森林組合のおふたりにお話をお聞きしました。

# ヨブ〜んはぶ〜んや〜ん。

たいへんけど  
続けていけるのは、  
自慢の山やからかなあ。

【美山町森林組合】  
振興課長 伊坂 幹剛(51)  
(楢谷 出身)

思い出すのは、五六豪雪。  
まさか足羽杉の宣伝になるとは。

林業と関わりを持って、最も印象深いのは、なんといっても五六豪雪やな。ものすごい数の木が折れて、甚大な被害が出た。でもそれで、足羽杉が有名になったんや。というのも、その時は県外からいくつもの新聞社なんか来て報道していたんやけど、そこに無数の大木の風景が映った。県外の多くの人たちがみんな

56豪雪で、たくさんのお木々が折れた。その光景は、今でも多くの人の目に焼き付いている。

思ったんやろうな  
あ。「福井の美山には、これほどの広大な土地があり、こんな大径木があるのかー」と。これを機会に、足羽杉ブランドが生まれたんやから不思議なものやわ。

山は傾斜が急やから、木を切ったり草を刈ったりする作業は重労働。しかも、杉や檜は育つまでに時間とお金がかかる。それでも、みんな山を守るために頑張ってきた。山は、自分らの生きる場所でもあるけれど、下流の市や町を支える存在でもある。森林は洪水などの水害を防ぎ、水をきれいにしてくれる。そんな山にたずさわれることは、本当に誇りに思う。だから、続けていけるのかもしれないなあ。

たいへんやけど、  
自分らの仕事が  
誇りやな。

山は傾斜が急やから



足羽杉ブランドには焼き印が押された。厳しい基準をクリアした証であり、高い価値を誇る。

### 美山森林組合

主に森林所有者（組合員）により組織される協同組合。森林所有者の地位向上、森林の保持培養、森林生産力の増進を目的としています。森林の手入れ、住宅資材となる木の伐採から製材加工・販売、森林保険の取扱いなどを行っている。

#### [美山森林組合の歩み]

- 昭和40年12月  
下宇坂・芦見・羽生・上味見・下味見・上宇坂の各森林組合が合併し、美山森林組合を設立。
- 昭和55年12月  
美山町林業センターの整備に伴い、同センター内に組合事務所及び機械保管庫・研修室を建設。
- 平成2年4月  
過疎地域むらおこし事業により、杉のモデルハウス（ログハウス）を建設。
- 平成2年10月  
円柱加工施設及び加圧注入及び加圧注入式防虫防腐施設を建設稼働。
- 平成10年9月  
加圧注入式防虫防腐加工施設の改設及び増設。

昭和五十五年十二月から五十六年二月にかけて襲った記録的豪雪は、山間部では積雪が三〇〇cm超。豪雪での被害は、美山の広大な敷地で悠悠と育つ足羽杉の存在を日本中に知らしめるきっかけともなり、これを機に、足羽杉をブラン

で、山へどしたい。  
いい木を育てる人も呼びたい。

チームワークで成し遂げた時、やりがいを感じるんですね。

日ごろの仕事の内容としては、伐採から搬出、運搬、仕分けなど。かんたんにはいかない仕事なので、先輩たちの仕事ぶりを見ながら常に勉強する毎日が続いていますね。作業は三〜四人のチームで行います。けっこう危険な仕事でもあるので、みんなで成し遂げた時には、本当にやりがいを感じちゃうんです。技術レベルを上げて、もっともったいい

[美山町森林組合]  
職員 小林 裕一  
(蔵作 出身)



仕事がしたい。それに、国産材を使ってできるものを探求していきたくいですね。

地元の若い人たちを、ふり向かせるような仕事を。

遠目から見ると、きれいな森なんですけど、中に入ると、そうでもないんです。間伐があまり進んでいないから、木々が乱雑に生えているところがあるんですよ。どれだけ時間がかかるかわからないですが、なん

とか整備して、いい木をつくってきたい。それが最終的に、いい山をつくることにつながりますからね。いい山ができれば、きつと地元の若い人たちも、故郷に関心をもつてくれると思うんです。

#### 林業の歴史

#### 古くから山と関わってきた、美山町の歴史。

美山は杉の生育に最適な気候風土を持ち、古くから植林・造林がさかんに行われてきました。豊富な山林からは、良質の薪、木炭が産出され、近世では福井藩や大野藩の燃料をまかなってきた歴史もあります。

#### 五六豪雪を機に知れ渡った、足羽杉のブランド。

昭和五十五年十二月から五十六年

ド化。徹底した管理が施されました。足羽杉は、市場において、長い年月を経て色つやが増していく高品質な素材として扱われています。

#### 新加工や環境開発など、時代に合わせた活動。

年号が平成に変わると、森林組合では、全国に先駆けて、杉の間伐材を利用してログハウスやベンチ、柵などの材料となる丸太材の加工施設を建設、販売を開始する。また、早い時期から環境活動にも尽力。間伐材を活用して熱エネルギーを生み出すバイオマスなど、林業の持つ可能性は、まだまだ広がるばかりです。



円柱を活用したゴミステーション。天然素材である木材に多様な可能性が秘められている。





【河内の赤かぶら】

# 伝統の味は、古里の表情

850年以上の長い歴史を持つ伝統野菜「河内赤かぶら」。時代の波にもまれながらもしっかりと受け継がれて来た秘伝の味わいです。その深紅の実に込められた思いを、生産組合の方々におたずねしました。

死ぬまで、  
続けて  
いきたいね。

【河内赤かぶら生産組合】  
組合長 西川 誠一(64)  
(河内)

親の姿を見ていて、「守らない」と思った。

赤かぶりにたずさわりはじめたのは、二〇才くらいの頃かな。親がやっていたのを手伝っていたのが最初だね。八月上旬の一番暑い季節に野焼きをするのは本当に重労働

働やし、あの山の急斜面での作業は大変や。でも、これ、とっても美味しいんやで。みそ汁にすると赤く染まるんやけど、これが格別。毎朝食べてるよ。この味は、ここでしか生れないし、この方法でしか作れない。守っていかないと、って思う。死ぬまで続けていきたいね。

赤かぶの存在は、  
村そのものだと思っ。

昔、収穫した赤かぶは、そのほとんどを大野の七間朝市で売っていたんだけど、七間が真っ赤に染まるぐらいの量が市場に並んでいたね。朝、

急傾斜で行われる栽培。足腰は若いもんには負けんね」と、西川さん。

三時から四時頃に、赤かぶ街道を運んだもんだ。一人で四十五kgぐらいの赤かぶを背板



組合長 西川 誠一さん

でかついで、男だけじゃなくて、女の人も半気でこなしてた。村が一つになって栽培していたという感じだったね。赤かぶの存在自体が、村そのものだった気がする。今、栽培農家は約一〇軒ほど。後を継いでくれる力が心からほしいね。



昭和7年のかぶら売り風景（大野市篠座にて）

赤かぶらの歴史

平家の伝説

〈起源〉平家の落人が河内集落に住み付き、平家の象徴である赤色のかぶらを村人に伝えたとされます。

〔特産品としての育成〕

- 昭和51年  
焼畑栽培だけでなく平地での畑作栽培を行うため、生産組合を設立。
- 昭和60年頃  
水田園芸としての取り組み検討開始。
- 昭和62頃  
優良な種子の確保を図るため、生産組合が採種し、栽培農家に配布。
- 平成7年より  
加工品の販売を、七間朝市に加え、県内スーパーマーケットでも開始。
- 平成12年より  
女性グループが、伝承される加工法をベースに研究。商品の販売を開始。

〔伝統野菜の伝承・保存〕

- 平成元年頃  
上味見小学校において赤かぶら栽培を支援。収穫された赤かぶらは、昔ながらの七間朝市での売り方を、子供自らが販売体験する。
- 平成3年頃  
消費者団体「ふくい・木と建築の会」に区有林を提供し、同会主催の「焼き畑農業体験会」を支援。同会員と区民の交流の場となる収穫祭も開催。
- 平成8年頃  
消費者対象の「赤かぶらの里満喫ツアー」を開催。赤かぶらの収穫や加工などの体験に加え、赤かぶらの由来を学んでもらった。参加者からは大好評を博しています。



この河内では、普段の料理に赤かぶが欠かせなかった。だから、お嫁さんはみんな、お姑さんに口伝えでその家独特の赤かぶの料理を教わったんだよ。そうやって、ふるさとの味が受け継がれてきたんだね。でも、やたら漬げとかぬか漬げなどしだいに消えていった料理もある。特にやたら漬げは、今ではお寺の報恩講く

嫁に入った時、皆がお姑さんに習ったんだ。

お姑さんから受け継いだ、大切なもの。

〔河内赤かぶら生産組合〕  
女性グループ 梅田 敏子(77)  
(河内)

から真っ赤に染まらいでしか食べられない。野菜の伝統は食べ方とともに残っていくもの。なんとか残していきたいね。

もつとたくさんの人に味わってほしい。

今、赤かぶを酢漬げに加工して販売してるんだけど、たくさんの人に「おいしい」って

言ってもらっていいですよ。大事なものは、味がしつかり



水洗いすると赤さが際立つ。梅田さんは、「昔は流水で洗ったんだよ。」と語る。

芯まで赤く染まることから、縁起物としても重宝される。

つてきれいだよ。肉質が固くてほろ辛いところが、酒の肴にぴったり。白慢の味、もつと多くの人に食べてもらいたいね。絶対、喜んでもらえる自信があるから。





【美山と豪雪】

# 美山を襲った豪雪の記憶

山々に囲まれた美山町は、県内でも雪の多いところで知られています。中でも、三八豪雪、五六豪雪では、大きな被害を受けました。

## 三八豪雪

下校中の先生と  
児童を襲った雪崩

昭和二十八年（一九六三年）、福井県全域に多大な被害をもたらした三八豪雪は、百年に一度の大雪とも言われました。

一月二十六日、芦見地区の籠谷と大谷の間で起こった雪崩は、悲劇をもたらしました。

午後二時三十五分頃、高さ約三〇〇mの地点から、突然滑り落ちてきた幅約五〇mの雪崩が、芦見小学校から下校中の児童八名と中山法水教頭を襲いました。地元住民白人の救助で、夜までに、児童五名の生存を確認。その後、福井署の救助隊、県警特別機動隊、滋賀県今津の陸上自衛隊も駆けつけましたが、中山教頭、安野輝夫君、



雪に埋もれ2階から出入りする町民

前川修一君、宮越不次男君の四名は、二〇時間後に帰らぬ人となって発見されました。

甚大な被害を  
もたらした大雪

芦見地区に深い悲しみをもたらしたこの大雪は、一月に入ってから、間断なく降り積もり、積



越美北線にラッセル車出動

雪量は、最大で三m五十五cmを記録しました。

この異常な積雪で、交通機関がマヒ。生活物資の調達が困難になった地区の住民は、極度の不安に陥りました。全半壊した建物の被害額は、四〇〇万円近くにもものほり（参考／当時の労働者平均月給額約二万五〇〇〇円）、壊した膨大な数の木々に林道の破損、炭窯の陥没など、林業にも深刻なダメージを与えました。

悲劇を乗り越え  
追悼演奏会

雪崩事故から二年後、今だに悲しみから立ち直れない児童の笑顔を取り戻そうと、芦見小学校の田井校長が、全児童による合奏団を組織しま



なだれの現場（福井新聞提供）

した。希望を見出した児童たちは練習にも熱が入り、三カ月後には十数曲をマスターするまでに成長。三回忌では、亡き友を偲び、思い出の曲「あすなるの歌」を捧げました。

同年二月には、その活動をお聞きになった三笠宮さまから、「全校音楽で悲しみをこらえ、立ち上がった皆さんの話を聞きたい」とのお言葉もあり、歌と今日までの経緯を録音したテープをお送りしています。



元気だったころの児童3人

## 下校中の九人のむ

美山村児童地区でナタレ

### 先生と児童三人不明

自衛隊員ら五人は救助される



### さらに一遺体

地元の救援隊に手合わす

の遺体

## インタビュー

慰霊碑と共に伝えたい  
繰り返してはならない悲劇

——麓谷地区 高瀬 詳 さん  
菊江 さん

芦見の雪崩跡には、同年九月に慰霊碑が建立され、四十一年以上経った今も、高瀬さんと奥さんの菊江さんが世話をしています。

菊江さんが嫁いで来たのは、豪雪の翌年。「ここで惨事があったとは知りませんでした。事故に胸を痛めて世話をしていた義母から、想いと一緒に引き継ぎました」。

当時を知る詳さんは、「芦見は、美山でもひと際雪が積もる所で、事故があった日は四mを超えていたんじゃないでしょうか。あちらこちら



高瀬詳さんと菊江さん

で雪崩があったけど、この場所は全く予想できなかったね。助かった五人が発見されたのは一mの深さで、亡くなった四人は、山の道路を扶んだ向かいの川の底近くまで流されていました。現場付近では、ふた抱えもある大木が倒され、自然の恐ろしさをまざまざと知らされました」と、忘れられない悲劇を語ってくれました。

芦見小学校が統廃合されるまでは、毎年、全校児童が掃除に訪れ、現在は地元の子供会が主体となり、年に一度法要を営んでいます。

「二度と悲劇を繰り返さないためにも、碑と共に雪の怖さを次代に伝えるのが使命」と、高瀬さん夫婦は慰霊碑を守ります。

## 五六豪雪

断続的に降るドカ雪に  
陸の孤島と化した地区も

五六豪雪は、猛烈な寒波に、三たび見舞われました。昭和十五年（一九八〇年）十二月二十八日の一日の降雪量は八十cm、年が明けた五日には八十二cmと、三八豪雪を超える記録的なドカ雪でした。

この雪で、杉等の立木が大量に折れ、山一面が白くなるほどの甚大な森林被害に見舞われた。又、芦見地区、上味見地区、赤谷、河内、神当部の三、九戸が孤立。一時は開通したと思われた道も、断続的に降り積もる雪で、またも陸の孤島へ逆戻り。家畜にとっても、道路の寸断は死活問題です。皿谷区の酪農家は、牛四十頭のエサが無くなり、「このままでは死んでしまう」と、町豪雪対策本部に助けを求めました。雪崩を警戒しながらの除雪ははかどらず、延べ半月の間、閉ざされた地区もありました。







【美山と豪雨】

# 平成16年 福井豪雨

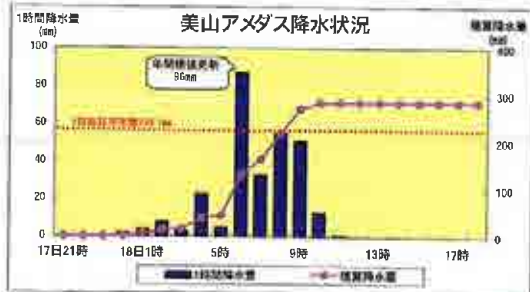
足羽川流域を襲った未曾有の集中豪雨。観測史上最大の雨は、緑豊かな美山を一瞬にして泥色に変貌させました。



## 豪雨の最大の川に 史上最大の集落 測する 観測史上最大の雨は、

平成十六年七月十八日。未明から激しく降り始めた雨に、大雨・洪水警報が出されたのは、人々がまだ眠りに就いているときでした。

一時間あたりの降水量九十六mmという観測史上最大を記録した午前六時台。市波を皮切りに、各地で濁



◀ 国土交通省レーダー/雨量にみる福井周辺の集中豪雨 (7月18日 午前8時 時点)

流が走り崖崩れや土石流が発生。町内を流れる川は、次々と氾濫し、人家、田畑、道路等を襲い、全町の八割近くに及ぶ千百世帯に避難勧告が出されました。

午前十時には、町内の足羽川二カ所が決壊。対策本部を置いた役場も一時孤立しました。避難所からさらに避難を迫られる集落も相次ぎ、逃げ場を失った住民の中には、屋根



の上でヘリコプターの救出を待つ事態に…。わずか十数時間の間に、例年に降る七月の平均降水量を上回る二

八五mmを降らせた雨は、死者一名、行方不明者一名を出し、全半壊

七十七棟、一部破損二十五棟、床上浸水一四六棟、床下浸水一七八棟の被害をもたらしました。

ようやく大雨警報が解除されたのは、夜の十一時近く。町内全ての避難勧告が解除されたのは、翌日の昼近くになってからのことでした。しかし、道路の寸断により赤谷、東河

原、西河原、折立、横越の集落は孤立したまま。そこには元の美山の姿はなく、茫然自失の町民が残されました。



7.18福井豪雨災害ドキュメント

[7月18日]

- 2:34 福井県嶺北部に大雨・洪水警報(気象台)
- 3:08 奥越に大雨・洪水警報(気象台)
- 5:32 役場職員に非常招集
- 5:49 市波集落で崩れ通報 市波道路冠水通行不能
- 6:00 美山町災害対策本部を設置  
(観測史上最大時間雨量となる98mmを記録)
- 6:03 西市布集落 泥流により国道476号線通行不能
- 6:05 西市布集落・三万谷集落避難勧告
- 6:30 奈良瀬地係〜小和清水地係(上新橋付近) 道路崩壊  
国道158号線通行不能
- 6:50 神当部集落 避難勧告  
◇ 西河原集落 県道土砂崩れ通行止め
- 6:58 蔵作集落 避難勧告
- 7:00 蔵作集落 住民避難完了
- 7:05 小当見集落 避難勧告
- 7:15 折立集落・下折立集落避難勧告
- 7:24 福井市前波町 土砂崩れ国道158号線 大野方面通行止め
- 7:30 朝谷集落 避難勧告
- 7:40 上味見地区・下味見地区全戸避難勧告
- 7:47 蔵作集落 蔵作川氾濫、住宅浸水
- 8:10 市波集落 避難勧告
- 8:20 大宮集落 羽生川氾濫 住宅浸水  
◇ 蔵作集落 消防署員により3名救助
- 8:30 南野津又集落 避難勧告 上味見生涯教育施設 8名避難
- 8:36 下宇坂地区・芦見地区・上宇坂地区全戸避難勧告
- 8:40 足羽川流域(全域)に避難勧告(再勧告)
- 8:48 西河原集落で河川決壊
- 8:53 上味見地区全戸で停電(上味見生涯教育施設へ避難)
- 9:00 境寺集落 羽生川氾濫により通行不可
- 9:10 羽生地区全戸に自主避難を指示
- 9:13 下吉山地係〜棚ヶ口地係間 土砂崩れで全面通行止め
- 9:15 朝谷集落の事業所内に取り残された男性3名、女性1名救助
- 9:23 小宇坂島集落 堤防から越水 田畑が冠水
- 9:25 ごっつおさん亭に63名が取り残される
- 9:31 三万谷集落 救助依頼 床上浸水4名孤立者救助
- 9:40 下宇坂小学校で炊き出し実施
- 9:50 間戸川が氾濫冠水、泥水1.2m以上
- 9:50 品ヶ瀬地係 足羽川右岸決壊
- 9:50 小和清水集落にて2名孤立(防災ヘリ救助依頼)
- 9:59 役場が停電
- 10:00 境寺地係 足羽川右岸が決壊  
◇ 美山消防分署が停電
- 10:10 防災ヘリの要請(小和清水6名)
- 10:30 役場・美山消防分署内に浸水始まる
- 10:35 品ヶ瀬地係、上新橋付近のJR線路崩壊
- 10:38 役場・中学校前の乗用車流され始める  
◇ 三万谷集落 住民が取り残され、水難救助要請
- 10:50 三万谷集落 石川県防災ヘリにより住民5名救出
- 10:55 市町村応援協定による応援要請、国に緊急援助隊要請
- 11:00 【役場前の水位が最高となる】
- 11:17 三万谷集落 住民20名を避難誘導 3名ヘリ搬送
- 11:25 品ヶ瀬集落 愛知県ヘリにより2名救助
- 11:20 福井県が災害対策本部を設置
- 11:35 高出集落 要救助者1名流される
- 11:40 三万谷集落 5名救助 石川県防災ヘリ
- 12:00 小和清水集落 6名救出 福井県防災ヘリ
- 13:05 ごっつおさん亭に自衛隊ヘリ到着避難開始
- 14:30 ごっつおさん亭に取り残された63名救出完了
- 14:37 下新橋橋脚付近で発見した要救助者をヘリで病院へ搬送
- 14:40 美山保育所が床上浸水
- 14:50 下宇坂小学校女性1名(妊婦) 救急要請
- 17:17 神当部集落 男性1名福井市内病院へ鳥取防災ヘリ搬送
- 17:30 羽生婦人会等から炊き出しのおにぎりが届く
- 18:30 役場内電力が回復
- 19:00 西河原ふれあい会館へ職員が安否確認・救援物資輸送
- 20:00 防災協定締結している愛知県扶桑町から援助物資届く
- 22:58 福井県嶺北部大雨警報解除

[7月19日]

- 4:30 被害者安否確認
- 5:34 折立集落 石川県防災ヘリにより1名を病院へ搬送
- 6:37 下宇坂小から上味見地区にヘリ物資搬送
- 6:57 東河原集落 滋賀県防災ヘリ1名病院搬送
- 9:40 東天田集落 京都府防災ヘリ1名病院搬送
- 11:00 町内全域避難勧告解除



水位が低下した河川に残ったのは、うずたかく積まれた太い丸太や上流でしか見られないような大きな岩石。中には、家具や

線道路でさえも、車線が確保できない状況で、特に158号線は、福井市宿布町と美山町小和清水との間が数日間渡って通行不能。町民の足に多大な影響を及ぼしました。

水道や電気は寸断され、電話も不通に。回復には数日から数週間を要しました。

河川の被害  
まさかの足羽川決壊

河川の決壊や崩壊は実に一二〇カ所。特に蔵作川の氾濫はひどく、集落のほとんどが激流に飲み込まれました。三万谷川や間戸川の氾濫も、集落を直撃。あたり一面泥の海と化しました。足羽川は品ヶ瀬地係と境寺地係で決壊。流れがカーブするところでは、何カ所も堤防が崩れ、元の川幅が分らないほどに削り取られたところもありました。

交通網の被害  
道路も線路もズタズタに

山のように堆積した土砂とゴミは、道路の境が識別できないほどでした。何本もの電柱がなぎ倒され、杉の太木や三mもの大岩が道路や家の庭などに転がり込んできました。道路は土砂崩れや舗装面の損壊で方々が通行止めに。中には、大きく深くえぐりとられたところもありました。幹線道路でさえも、車線が確保できない状況で、特に158号線は、福井市宿布町と美山町小和清水との間が数日間渡って通行不能。町民の足に多大な影響を及ぼしました。

住宅の被害  
泥とゴミにまみれた家々

住宅被害は町内の三分の一以上ののぼり、二次災害の恐れから、復旧が進むまで避難生活を余儀なくされた住民もいました。全壊、半壊の家は家具類がほとんど流失し、逆に家の中には泥やゴミが堆積。浸水にとどまった家も泥水にかき回され、家具や家電製品が全滅した家も少なくはありませんでした。

農林業の被害  
稲は水没、山地にも打撃

水田の多くが埋没や冠水。稲穂が出たばかりとあって、農業従事者には大きなショックを与えました。山地や林道の崩壊もひどく、木々にも多大な被害が出ました。農業用施設、林業施設の被害は数にして七百余り。所得面にも大きな打撃を受けました。

**福井豪雨の記録**

【降雨記録 ~観測史上最大~】  
【時間降水量】96mm  
(7月18日 5時10分~6時10分)  
【積算降水量】285mm

【福井豪雨災害被害概要(町内)】  
【避難状況】勧告 旧村5地区/町内6地区  
【避難世帯数】1,100世帯/町内1,415世帯  
【避難人数】3,992人/町内5,250人  
【ボランティア】16,387人



復興ボランティア

町民を勇気付けた二万六千人の力

翌日から、住民は総出で必死に復旧作業に取り組みはじめました。しかし泥とゴミで埋もれた我が家に「どこから手をつけていいのか分からない」と、被災者は立ち尽くしたものです。

そんな美山町の窮状を知って、県内外から、大勢のボランティアがやって来ました。日増しにその数は増え、二週間あまりで、総勢二万六千人を超えました。



太陽がギリギリと照りつける猛暑の中、汗と泥にまみれて懸命に作業に当たるボランティアの姿に多くの住民が勇気付けられました。

積もった土砂を一輪車で何往復もし、床下に溜まった泥はバケツリレーで運び出しました。被災者を励ましながら、民家の水浸しになった畳や家具の排出にもあたりました。ひっきりなしに大型トラックで運ばれてくる瓦礫の分別は、悪臭に耐えながらの作業でした。

太陽がギリギリと照りつ

豪雨から一年

復興と災害に強い美山

豪雨から一年。自然の恐ろしさを風化させてはならないと、足羽川上新橋近くに、豪雨で流出したJR越美北線の鉄橋の橋脚とレール、枕木を使ったモニユメントが設置されました。

パネル展や義援ライブなど数々のメモリアルイベントも開催されました。その中の一つが、本ごころ文化ホールで上演された、劇団ふるさとキャラバンによる豪雨メモリアルミュージカル「橋をかけよう」。町民劇団「みやま木ごころ一座」の子ども達が特別出演。水害から立ち直った「元気」をアピールしました。



また、同規模の豪雨を想定した防災訓練が、町を挙げて行われました。

土砂災害救出訓練から炊き出し訓練にいたるまで、自分たちの役割を再確認。災害に負けない強い街づくりへの決意を新たにしました。

体験談

激流との戦い  
蔵作地区の人命救助

——当時福井地区東消防署美山分署長  
五十嵐峰雄さん

五時三十四分、美山分署に入った福井水害の第一報は蔵作川の氾濫でした。消防士三名がすぐに出動、その中の一人が、当時分署長を務めていた五十嵐さんでした。

通常のワイパーでは全く意味を成さないほどの異常な雨の降り方で、既に冠水している道もありました。川の氾濫はひどく、すぐに地元の消防団を召集し、土のうを積み始めました。しかし、人力では間に合わず、重機を要請。それでも、鉄砲水のように泥水が上流から飛び出てくる。これはもう止められるものではないと判断し、人命救助に切り替えて、高台の公民



復興後の風景(小字坂島)

館に地区の人たちを避難させました。家に留まろうとする人を叱りとばし、お年寄りをおぶって激流の中を避難所まで運び、もう必死でした。道が歩ける状態じゃない所は、高台から家の屋根に梯子を架けての救出です。隊員の一人が川と化した道路で流されそうになり、人綱で引き戻し一命を取り留めました。

これほどの水害は私を含め、全ての隊員にとっても初めてのことです。家の軒下をすごい勢いで流れる泥水、家が建っている場所はまだ走る激流は忘れられません。そんな中で、地区の全員が無事だったことは、奇跡と言っても過言じゃないと思います。





【学 校】

# みやまの学校

学校の思い出は、いつも心のどこかにおいて、みんなの心のよりどころ...  
おとうさんとおかあさんのいる家から、はじめて外へ出て小学校へはいます。  
先生の前では、みんなが生徒、それは大人になってもかわらない、懐かしい心の中のふるさとです。  
みやまの学校をご紹介します。







# 下宇坂小学校

下宇坂小学校は地域の絶大な支援のもと、着実な教育実践を進めてきた。平成6年、文部省指定「学校給食改善研究」の発表をし、高い評価

を得ました。また、地域の自然・環境を大切にしながら教育を進め、毎年美山の特産である「そば」の栽培や米作り、国道のフラワーロード花壇づくりなどの体験



子どもたちの手による花壇作り。

活動を取り入れ、ふるさとを愛する子どもへの育成に努めています。  
秋の花壇「フラワー・ブラボー・コンクール」では何度も入賞し、平成5年には自治大臣賞を受賞しました。



学校のそば畑で美山特産の「宮地そば」の栽培をしてきた。



学校の水田で地区の人々の指導を受けて「もち米」を作った。



国道158号線のフラワーロードを地域の人々と一緒に作り、世話をした。



秋には、収穫感謝祭が行われ、「もち米」や「宮地そば」の試食をした。



# 芦見小学校

美しい芦見川をはじめ、豊かな自然に恵まれた芦見小学校は、早くから複式教育を導入し、自学自習の教育実践を続けてきました。

昭和34年に福井県へき地複式教育研究校に指定され、さらに福井大学

の教育自習協力校となり、複式教育の先進校として注目されてきました。

平成8年に東海北陸へき地教育研究大会が開催され、多くの教職員の前で、堂々と日頃の成果を発表し、大好評を博しました。



さよなら旧校舎！新校舎へ移転を前に全員で記念撮影。(平成6年)



7月には地区の人を招待して七夕集会を行った。



毎年1月26日には三八豪雪の雪崩の犠牲者の慰霊祭を行った。



閉校式で児童・教職員・保護者全員が心を合わせて、校歌を歌った。



美山荘へ慰問に出かけ、日頃の学習の発表をした。





# 羽生小学校

「心豊かにたくましく」をモットーにしている羽生小学校は、知・徳・体の調和のとれた人間形成の教育、特に道徳教育に力を入れてきました。

昭和62年に「道徳教育研究」の

文部省指定を受け、「心豊かで思いやりのある、助け合い、励まし合いの学習の工夫」をテーマに研究、研鑽を重ね、平成元年その成果を発表し、高い評価を得ました。地域社会の中での道徳実践により、よりよき人間の形成を目指す社会奉仕活動や、挨拶運動は今も続けられています。



伝統の朝の挨拶運動。この後整列して学校に挨拶する。



奉仕活動「おたすけマン活動」、地域でも社会奉仕活動をしている。



地域と連携した「道徳教育研究大会」では保護者も参加し、フォークダンスをした。(平成元年)



毎年9月には体育大会が行われ、幼稚園児も一緒に鈴割りをした。



秋にはたくさんの地区の人に来てもらい、学習発表会をした。





# 上味見小学校

飯降山を仰ぎ、豊かな自然に恵まれた上味見小学校では、地域に根ざしたユニークな教育実践がなされてきました。

地元特産の「赤かぶら」を栽培し、秋には大野の朝市で自ら販売す

るなどの貴重な経験を「チビッコ農業寺子屋」体験発表会で発表し、平成2年に最優秀賞を受賞。その後10年間連続出場し、特別賞を受賞しました。

また平成10年に子供会として、

「中部日本優良子ども会」の表彰を受けました。



満開の桜の下で、お花見給食。



自分らで作った「赤かぶら」を、大野の朝市で売った。



校庭横の山の切り株に、絵を描いて「たのしい山」にした。(平成6年)



農業体験を「チビッコ農業寺子屋」で10年連続発表。特別賞をもらった。(平成8年)



地区体育祭で恒例の全校生徒による、一輪車パレードを披露。





# 下味見小学校

足羽川の清流の恵を受けて発展してきた下味見小学校からは、学者や画家など多くの文化人を輩出してきました。

近年、体験学習を重視し、「みどりの少年隊」を結成。ユニセフ活動に協力し国際理解教育を展開するなど、心身ともに健全で人間性豊かな

人格の形成を目指してきました。また、社会福祉教育の実践が認められ、県知事表彰を受け、平成4年には「中日あおば賞」を受賞しました。



毎週月曜日には児童集会があり、歌を歌ったり意見発表をした。



毎年12月には福井でユニセフ街頭募金をした。



緑の少年団全国大会に参加〈六呂師高原にて〉(平成4年)



新校舎建築のため、平成2年4月より1年9カ月間、羽生小学校旧体育館で学ぶ。



全校生徒による「ちよいやさ踊り」(閉校記念パーティで)。(平成13年)





# 上宇坂小学校

清流足羽川のほとりに発展してきた上宇坂小学校は、地域の学校に寄せる強い思いのもと、PTA活動や子ども会活動など家庭・地域と学校が一体となった教育実践を進めてきました。

また、教育研究にも積極的に取り組んできました。金銭教育の実践により「子ども郵便局」が昭和32年に大蔵大臣賞を受賞。  
近年は、学校給食・学校安全という健康・安全教育に大きな成果をあげ、平成元年に「学校安全教育」で文部大臣賞、平成2年には内閣総理大臣賞を受賞しました。



たくさんの保護者の見守りの中での、なわとび大会。



祖父母学級で、みんな張りきって発表をした。



校庭に積もった雪で、グループ別で雪の造形。



美山啓明小学校校舎雑築のための防護フェンスに、壁面を共同制作。(平成11年)



毎年夏休みには、ウォーキング大会が行われた。





# 美山啓明小学校

芦見・上味見・下味見・上宇坂の4つの小学校が統合され、平成13年に美山啓明小学校が発足しました。遠方の児童たちはスクールバスに乗って通学しています。

校舎は木材を多用した温もりのある建物で、中央には図書館が配置され、町立図書館と連携し、全職員が工夫を凝らし、定期的にブックトークや読み聞かせをして、児童の読書意欲を高める取り組みをしています。そのユニークな読書指導が高く評価され、平成16年には文部科学大臣賞を受賞しました。



例年、マラソン大会・やまびこタイムで体力づくりをしている。



学校の全職員が読み聞かせ活動をする。読書活動ブックトークで、子どもたちも発表。



毎年、学年合同親子PTAウォーキング大会が開かれた。



バルーンアートでクリスマスツリー作りに挑戦。



冬には恒例のスキー教室が行われる。(九頭龍スキー場)





# 美山中学校

美山中学校が昭和35年に発足して以来、三八豪雪、五六豪雪、平成16年の豪雨水害と幾多の自然災害を地域社会とともに乗り越え、輝かしい伝統を受け継ぎ、現在に至ります。

知・徳・体の調和した心身ともに健やかでたくましい人間の育成をめざし、学習と部活動を教育活動の両輪にすえ、生活四原則をはじめ生徒の自律と自主性を基本としています。また地域社会の温かい支援のもと、

特色のある開かれた学校づくりをすすめるため、県下に誇る中学校として発展を続けています。



朝の登校風景。スクールバスを降りて校門で挨拶をかわす。(昭和58年)



修学旅行先での前田建設工業株式会社訪問。現在も会長さんの激励会の形で続いている。



5月1日は開校記念日。恒例のマラソン大会が行われる。(昭和55年)



9月、体育祭では若き情熱を出し切ってます。



学校祭の合唱コンクールでは、心を込めて歌われた。



福井豪雨水害により被災した職員室の泥だし作業(生徒・教職員がボランティアの支援を受け復旧を果たした)(平成16年)

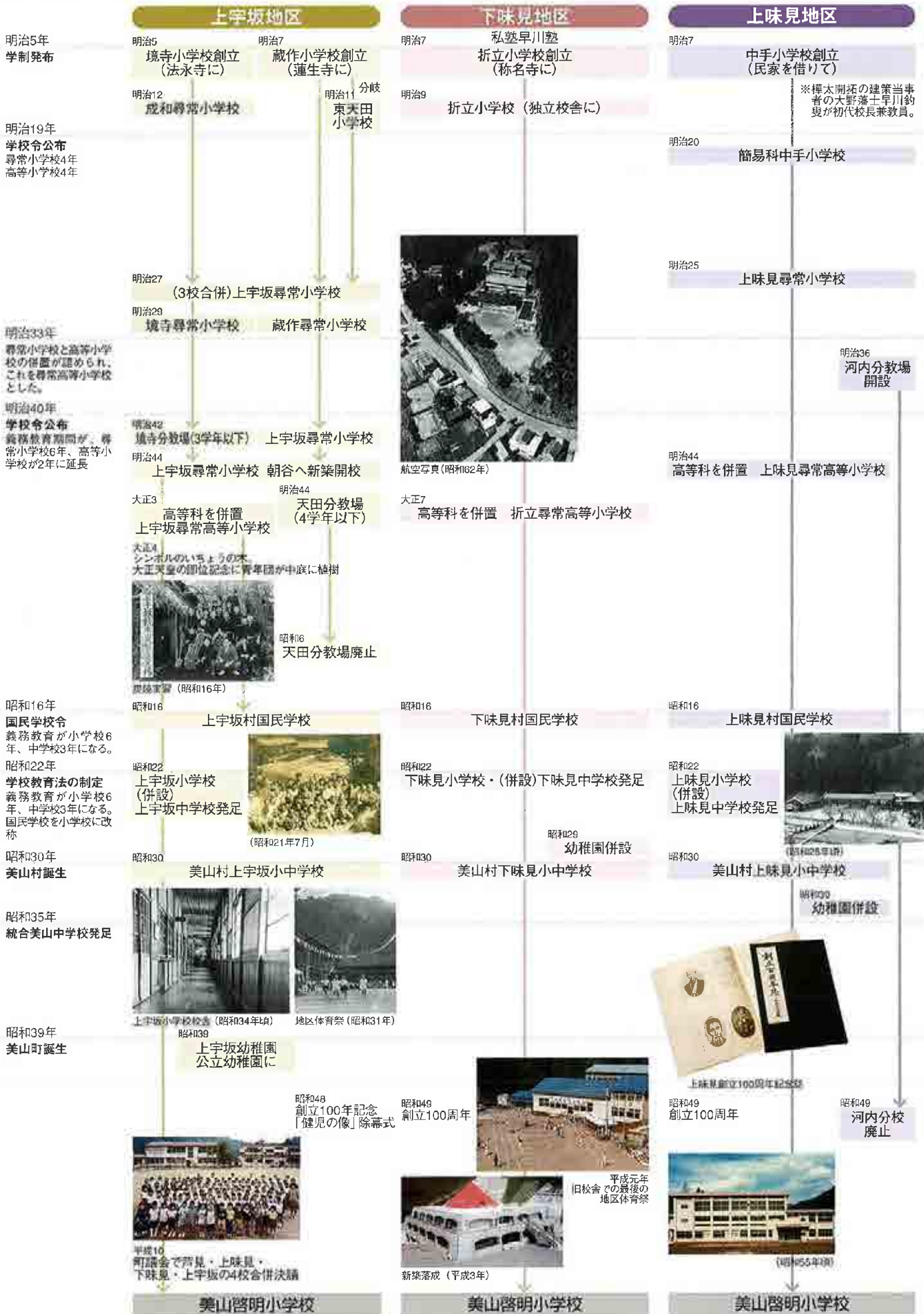


# みやまの学校の歴史

美山町はとても教育熱心な町でした。



# 子やまの記録簿



※平成13年 芦見・上味見・下味見・上宇坂の4小学校が統合し、美山啓明小学校開校



## 美山中学校

下宇坂中学校 芦見中学校 羽生中学校 上味見中学校 下味見中学校 上宇坂中学校

昭和35年 6中学校を統合 足羽郡美山中学校

校舎完成まで従前の6中学校校舎を教場とし、旧下宇坂中学校校舎に本部を置く

朝谷島に校地を定め、第1期工事（校舎）完成

昭和37年 開校式（校舎の屋上にて）

昭和38年 寄宿舎完成「洗心寮」 三八豪雪



統合第1回目の卒業式（昭和38年）

寄宿舎（昭和38年）



全校舎（昭和38年）

昭和39年 町制施行により 足羽郡美山町美山中学校と改称

昭和53年 寄宿舎増築

昭和56年 五六豪雪により3学期始業日1月19日に

昭和59年 校庭拡張工事完成（15,000㎡）

平成2年 創立30周年記念式典

平成7年 校舎・体育館の改築落成



体育館・本校舎新築落成（平成7年）

平成16年 福井豪雨により校舎、体育館、グラウンドに大きな被害

平成17年 校舎・体育館復旧工事終了  
グラウンド復旧工事終了

## 美山啓明小学校

平成10年6月 町議会で4小学校の統廃合を議決

平成11年12月 統合小学校 校舎完成

4校児童入り初め

上宇坂小が仮入校



平成12年10月 統合小学校 体育館完成

4校児童入り初め



平成12年10月 校名「美山啓明小学校」に決定

平成12年11月 校舎・体育館の落成式

平成13年1月 校章、校歌 決定

平成13年3月 4小学校 閉校式



芦見小学校 上味見小学校 下味見小学校 上宇坂小学校

平成13年4月 4小学校を統合 美山啓明小学校 開校式



平成13年6月 プール落成、プール開き



平成16年7月 福井豪雨で、グラウンドが被害を受ける



【美山と部活】

# 部活動に燃える！

美山中学校は、昭和35年に下宇坂・声見・羽生・上味見・下味見・上宇坂の6つの中学校が統合して発足、平成18年で45年を迎えます。学校創立以来、学習と部活動の両立を図りながら、知・徳・体の調和のとれた健やかでたくましい人間形成をめざしてきました。中学校の部活動の輝かしい歩みを中心に、美山中の教育を振り返ってみました。

## 生徒で つくる 部活動の 歴史

「結果よりも過程を」美山中学校生徒が部活動に取り組むモットーです。部活動を通じて最も重視していることは、生徒指導上の効果です。それは勝利至上主義からは決して得ることができません。日標や高い志に向かってひたむきに打ち込み努力する忍耐強さ、そこから培われる強い精神力とたくましい身体。互いに信じあ

い、励ましあう練習から生まれる友や先輩後輩の温かな人間関係。中学校卒業時に、ほとんどの生徒が思い出の筆頭に挙げるのが部活動であり、部活動での体験を励みや自信とし、学習や生徒会活動を一層充実したものにしています。

生徒数が減少するにともない廃部してきた部活動も多く、現在は、男女バレーボール、野球、女子ソフトボール、男子卓球、吹奏楽の6つの部活動ですが、すべての生徒が参加する全員部活の伝統を受け継ぎ、中学校教育における部活動の意義を存分に活かしています。

### 創成期の頃 昭和30～40年代

創立当時の中学生は現在の団塊の世代といわれる層で、生徒数も750名を超えていました。しかし、

昭和40年代の10年間には年々減少し、350名までに半減しました。

美山中の部活動の先駆をしたのは、女子バレー部でした。多田晴浪先生の徹底した厳しい指導により福井国体直前の昭和42年までの間に226連勝という大偉業を達成しました。

女子チームに刺激され活躍したのが、男子バレー部でした。昭和41年の県新人大会では男女アベック優勝という快挙を成し遂げ、当時の選手が多くが高校生になっても活躍。福井国体の少年チームの選抜メンバーにもなりました。

中学校創立と同時に創部された吹奏楽部（当時、ブラスバンド部）は、昭和39年の県吹奏楽大会で優秀賞を受賞、昭和43年10月の福井国体の式典演奏に加わりました。40年代前半、地区大会でしばし



ば優勝の記録のあるのが女子体操部です。狭い体育館の一部を使用し、練習に励んでいました。40年代半ばから、地区大会や県大会で優勝という輝かしい栄光の記録に新たに名を連ねるようになったのは、相撲・女子ソフトボール・男子バスケットボール部です。

### 中期の頃 昭和50～63年

この時期の学校規模は学級数10～6クラス、生徒数は330～250名で中規模から次第に小規模校へ変わる頃でした。

男子バレー・女子バレー・相撲・女子ソフトボール・男子ソフトボール・男子バスケットボール部など数多くの部活が福井地区の常勝チームとなり、新たな黄金期を築きあげました。50年代前半には吹奏楽部も地区、県、北陸大会で入賞を果しました。

特筆すべきは、相撲部の活躍です。昭和44年から、地区大会では、毎年優勝者を輩出し、「強豪・美山中」の名を馳せました。昭和52年、53年には連続して全国大会に出場、全国中学生相撲選手大会では、い

ずれも決勝トーナメントに進出しました。

男子バスケットボール部は、県大会優勝の栄冠にも輝いたが、生徒の減少により昭和54年夏季大会を最後に残念ながら廃部となった。

一方、開校と同時に創部の野球部も、昭和56年には春、夏と地区を勝ち上がり、県大会に駒を進め、夏には県大会3位、58年にも新人戦地区3位という結果を残しているほか、高校進学後も多くのOBが甲子園球児として活躍しました。

### 近年の状況 平成現代

平成元年の240名をピークに生徒数は年々減少し、17年後の現在は150名前後で推移しています。

全員部活制をとり、それぞれが限られた男女バレー・野球・女子ソフト・男子卓球・吹奏楽部の6つの部活動のいずれかに属し、課外活動というよりむしろ大事な学校教育活動



【吹奏楽部】  
全日本吹奏楽コンクール北陸大会（中学校A編成 金賞）



【男子バレー部】  
北信越石川大会、翌年全中ベスト8の足がかりをつかんだ。



【女子ソフト部】  
北信越石川大会、元気よく飛び出すサイン

の一貫として部活動に取組み頑張っています。このことが、生活の充実感や勉学にも好影響となり、進学にも立派な結果を生んでいます。

近年の部活動の成績としては、男子バレーや女子ソフトが常に地区の優勝争いからみ、県大会の常連となつているのに加え、平成5年に新設した男子卓球部も力をつけてきています。

**最近の各部の成績**

女子ソフト部、平成5年夏の県大会2位、北信越大会ベスト8を皮切りに、地区、県北信越大会の常連となり、中部日本大会で準優勝を飾るなど素晴らしい成績を残し強豪の仲間入りを果たしています。

男子バレー部、平成3年の県新人大会から、ほぼ地区大会は制覇し、県大会出場上位入賞を果たし、北信越大会まで駒を進める福井県の名門として復活しました。特に平成11年春夏と県2位で北信越大会に出場し、見事優勝。続く全中大会でもベスト8に入賞という輝かしい成績を残しています。

男子卓球部は、団体戦で平成11年夏の県大会2位、秋季県新人大会

会3位。12年秋の県新人大会優勝など、力を発揮しています。

女子バレー・軟式野球部、部員数の少なさが悩みで、近年は地区突破、県大会出場を目指し頑張っています。

唯一の文化部の吹奏楽部、生徒数の減少の影響は大きく、少人数での編成を余儀なくされていますが、日々の練習は充実しており、近年は中日・全日コンクールとアンサンブルコンテストで、常に地区代表として県大会に出場。さらに、全日本北陸大会や中日大会本選などにも度々進出し、金賞や優秀賞を受賞。平成17年10月の中部日本吹奏楽コンクール本大会（浜松市）では、みごと3位に入賞しました。



【女子バレー部】  
大会で熱戦を繰り広げた。



【野球部】  
地区大会選手宣誓する 主将（福井市営球場）



【男子卓球部】  
部員数減少の現在も健闘している（壮行会）





# 春に感謝する祭 じじぐれ祭り

毎年5月5日の子どもの日に、河内の住吉神社で行われるじじぐれ祭りは、約1000年の伝統を持ち、県の無形文化財の指定を受けた祭りです。

伝承によると祭りの由来は、この区の上比丘尼の「神の森」から、現在の小谷の山に創建された社殿に、神さまをお移した遷座の儀式を今に伝えたもので、神社草創期の柴みこしを造り、ねそ、ぐんど藤による結束の技術などがたいへん貴重だと県無形文化財の指定を受けました。



ツバキ または ヤマブキの花

底筒男命



糸田いぐんどフジ

コブシ または モクレン

中筒男命



シヨウブ (シャガ、山シヨウブのこと)

上筒男命

より代る体





じじぐれ祭りは、朝五時神社前に集合し、ブナ切り、より代作り、台座造りの三チームに分かれ、まずブナ切りが山へ出発します。

台座造りは、丸太で井桁を組み、それに杉とツバキを四角に結束し、ネソとぐんど藤で台座にかけ、十人がかりで、カケヤで打ちながらしめ上げていきます。その台座にシダやブナの枝をさしこみ、みこしの中央に神社が祀る三体の神さまを、三体のより代の花束とし、杵をつけて打ちこみます。



午後二時、神主による祝詞があげられ、神酒をみこしにふりかけ、

「千代、千代、千代の花の都の手に手をこめて、山それ、そ、わ、か」の御神歌を歌いながら柴みこしをゆすり、さし上げ、村中を舞い狂うのです。

祭りは古いしきたりに従って氏子の家を巡り、神殿に帰ってきます。祭りのクライマックスは、神のより代である花の争奪戦です。

それはその年の縁起を占う意味もあり、華やかで激しく奪い合う姿は祭りの見どころです。昔は子どもみこしもあり、



子どもみこしが先導しました。この宮の神さまは「女の神さま」で子ども好き、子どもみこしを大切にし、みこしに参加できない幼少の子には、ブナの枝で箒みこしを作り先導させました。また角力(すもつ)好きの神さまで、乳の出ない女の人は、おかゆを神前にそなえ、子どもに角力(すもつ)をさせ、そなえたおかゆを食べ、小さい狛犬を寄進しました。



た。それで小さい狛犬が、神殿にたくさん残されています。

「じじぐれ祭り」とは「じじふり祭り」がなまったもので「野山の春の気配に心が奮い立つ」という意味で、春に感謝する祭りです。







# 東河原八幡神社の神事 鉾出し

式内八幡神社(東河原八幡神社)で  
9月敬老の日の前日の夜におこわれる鉾出しは、地区の人たちが  
地区のためにおこなう昔ながらのみんなのお祭りです。

烏居と八輪法、新月、太陽の紋様を  
染めた垂れ布を掛けた傘を差し、正装  
した区長と神官が出てきます。傘を掲

と叫びます。

竿持ち、入口で「鉾出せ」「鉾出せ」

ちは、先がさらり状になった青竹を一

竿持ち、入口で「鉾出せ」「鉾出せ」

と叫びます。

烏居と八輪法、新月、太陽の紋様を

染めた垂れ布を掛けた傘を差し、正装

した区長と神官が出てきます。傘を掲

と叫びます。

竿持ち、入口で「鉾出せ」「鉾出せ」

ちは、先がさらり状になった青竹を一

竿持ち、入口で「鉾出せ」「鉾出せ」

と叫びます。

烏居と八輪法、新月、太陽の紋様を

染めた垂れ布を掛けた傘を差し、正装

した区長と神官が出てきます。傘を掲



鉾の先が  
さらり-  
なっている

なわで  
しばっている

げた区長は、三韓征伐のおり活躍した伝説の神功皇后をさすといひます。

竿を持った若者たちは（三韓まで）「遠いぞ」「遠いぞ」と叫びながら、神社への道を前駆けます。途中ところどころで、みのを着て帽子をかぶり十

字架を持った若者を中心にして、若者たちはみなで激しく竿を打ち合わせ、それは暗い宵闇の鎮の杜に猛々しく響き渡り、勇壮な跳めです。

社殿につくと、若者たちは竿で社殿を打ちながらまわりを七回半巡ります。区長も一緒に社殿をまわりながら、隙を見て社殿に入ろうとしますが、若者たちに阻まれます。

祭りもいよいよ盛り上がり、輿が頂点に達したころ、区長は社殿に傘を納め、祭りは終わります。

このあと若者らは古来から伝わっている「やんしき」や「チヨイヤーサ」などの踊りを舞い、社殿では御神酒をいただきます。

五百年以上の伝統を持つ古い神事である鉾出しは、いにしへの生活を今に伝えるとともに、地区のみんなですごす懐かしい祭りの思い出として、地区と人と人とを結びつけています。







## ウォークラリー

毎年8月には、美山の美しい自然の中でウォークラリーが行われます。

広い田んぼの中の道を、地図を片手に、あちこちに用意された、ゲームやクイズに答えながら、どれだけ速くコースを回れるかが勝負！

町外の人も参加して、わきあいあい。美山のことを知らない人に答えを教えてあげたり、難しい問題はみんなで考えて知恵を絞ったり、みんな仲間、みんなこの美山で、ひとつになります。

# みやまスケッチ



## 美山ふるさとスケッチ大賞

美山を描き続ける豊田三郎画伯の指導のもとに、美山を描き競うふるさとスケッチ大賞は、絵を愛する人たちが心待ちにするスアキなもよおし。

毎年100人以上の絵画ファンが集まり、旧下味見小学校を拠点に開催されます。

美山の美しい自然とふれあい、豪雨災害の爪痕に心が痛むこともあります。「愛情を持ち、感動を心で描いて」という豊田画伯の言葉に、みんな新鮮な気持ちで絵筆を取り、真っ白なキャンバスにチャレンジします。



## フラワーロード158

国道158号線の三万谷く市波間は、美山の玄関口。

美山に住む人、美山を訪れる人の目を喜ばせるために、毎年沿道に花を植える「花いっぱい運動」を続けています。そして7月ともなれば、あざやかなマリーゴールド、サルビアの花たちがまぶしく沿道を飾るのです。

この「フラワーロード」は小学生から大人まで、たくさんの方の善意のボランティアによって支えられています。その人たちの心を受けて、明るく、美しい花が咲き誇ります。

# はな祭り

芦見川に沿って道をしばらく上っていくと、芦見地区に目を引くかわいい看板と花畑、そしてキャンプ場「リズムの森」が見えてきます。

はな祭りは、地区の人とボランティアのみんなで作る手作りの夏のお祭り。自分たちの町の話は、自分たちでやろうと計画、早いもので3回目となります。お祭りの歌「花畑」や「ひまわりサンバ」の振り付けを考えてみんなで踊ったり、オカリナや大正琴の演奏

会もあり、ちょっととした大人の文化祭みたい。

花畑もこのお祭りも、共に大きく育てたいと頑張っています。



## 伊自良の里 伊自良温泉

森のドームに包まれた、のどかな日帰り温泉。周辺には豪族の館を再現した伊自良館や、白壁に朱色の柱が鮮やかな赤心資料館、発掘中の伊自良氏館跡が点在し、思

いは南北朝時代へタイムスリップ。のれんをくぐれば、湯けむりの中に光がふりそそぐ浴槽、窓の外に広がる眩しいほどの緑、柔らかな感触の湯。町内外のリピーターも多く、この静かな温泉も週末になると地元の人や家族連れで賑わいます。

「どこから来たさった?」「ほく、いくつ?」  
 地元の人との語らいも温かく、生命の源が感じられる温泉です。

## 美山観光ターミナル

美山の新しい名所、美山観光ターミナルは、美山駅と初のコンビニも併設されて明るく便利になり、みんなの顔も朗らか。

JR 越美北線福井〜美山間は福井豪雨災害以来まだ復旧せず、バスの代行運転ですが、駅を利用する人たちの風景は今も昔もかわらない。一日の始まりの緊張と期待が入り交じった忙しい朝です。

ひとりふたりと駅に集まってくる生徒達、遅れそうな学生のため、JRの駅員さんはバスや電車をとめて待っていてくれます。こんななんびりした光景も美山ならではの。





# 美山の宝 美山の誇り 美山の詣で



## ① 称名寺(折立)

真宗高田派の寺院で、旧大野郡内では平泉寺に次ぐ古刹。寺伝によると、藤戸の渡しの合戦で武勲を立てた、源氏の武将佐々木三郎盛綱が開基。天明5年(1786)に建てられた八脚楼門の山門は、桃山時代の華麗な建築様式を取り入れており、元禄2年(1689)に造られた本堂は、ほぼ当時の形で現存している。

### 山門



### 戦国時代の文書十数通

信長七石寄与の朱印状、金盛良近禁制札など



### 雪舟筆観音像 など



## ③ 八幡神社(東河原)



地区の言い伝えによると、八幡神社の境内には巨大な榎の木があり、村の半分はその四方に伸びた枝の下にあったことから榎神社の名称が生れたという。毎年9月14日の夜、三韓征伐の勝利を記念した神事「銚出し」が奉納される。

### 十王像

十王像は、通常閻魔王を入れて10体造られる。一般に閻魔王は座像が多い中、東河原区の八幡神社のものは立像。現在は8体。



## ④ 本向寺(市波)

吉崎に移住していた第5代顯は、吉崎御坊の火災の際猛火の中に飛び込んで、蓮如上人愛用の親鸞上人真筆の経典を、自分の腹を割って押し込み焼死した。了願が死守した「度籠りのお聖教(血染めのお聖教)」は京都西本願寺に現存している(国指定重要文化財)。大野藩主松平但馬守や、福井藩主松平吉品らが深く帰依した古刹。



### 殺生禁断制札屋付

12代住職祐忍の時、第5代福井藩主松平昌明公が川遊びに来て、危難に遭った折、助けた恩賞として、貰ったもの。畢付き及び制札等の真筆を寺宝として遺存。



## ⑤ 一休さんの深岳寺跡(三万谷)

朝倉孝景とその弟経景は、一休和尚に帰依していた。経景は三万谷に深岳寺を創建し一休の頂相(禅宗の高僧の肖像画)をおさめ、息子の祖心紹越を開山とした。その縁あって一休和尚もこの寺をよく訪れたという。紹越は哀珠庵(一休禅師の庵室)の四世。



県指定文化財

【木造 小龍丸】

時代 鎌倉期

銘「国宗」全長96.5cm 刃長77.3cm



### 9 八幡神社(東俣・西俣)

東俣と西俣の字境界地にあり、元は無格社であったが、明治時代に村社に列した。



町指定文化財

【木造 阿弥陀如来坐像】

時代 平安後期

像高52cm 完好優美な像。造形的に秀でており、損傷もほとんど無いため、史料的にも貴重な像。

### 10 正行寺(西天田)

折立にある称名寺の開基、源氏の武将依木三郎盛綱(法名は西念坊光美)の四代目、真空の子祐寛が開基。

町指定文化財

【木造 聖徳太子立像】

時代 鎌倉後期

像高59cm 玉座、頭体一材。上半身は裸体で、下半身に裳を着け二歳時の太子の姿「而无太子像」。童形は県でも珍しい。



### 11 天満神社(赤谷)

赤谷川沿いの赤谷西村の天満神社は、文治年中(1185~1189)に、赤谷に隠棲した平家が創建したと伝わっている。



町指定文化財

【木造 釈迦如来坐像】

時代 藤原時代

金銅造りのこの釈迦如来坐像は、鑄造の手法により作られ王朝の美しさがある。この像は平維盛の特依といわれ、実際に8cmの小像ながらその洗練された手法は、古代末の中央の貴族と関係があるという。

県指定文化財

【木造 大日如来坐像】

時代 平安後期

像高93.5cm 樹材一木彫成像。大きい螺髪・面輪部・受用表現は個性的な美しさがあり、造形的にも極めてすぐれている。



県指定文化財

【木造 阿弥陀如来坐像】

時代 平安後期

像高91cm 頭体の根幹部を一材から木取りをなし、内割りが施されている。彫眼、螺髪は小粒、衣文線は浅く単純で、全般に素朴感がたただよう像。



### 7 赤心資料館(中手)



県指定文化財

【木造 観音坐像】

時代 鎌倉期

峰観音と呼ばれ、初め山城の頂上に祭られていたが、後に下に下ろされ、中手観音堂に祭られていたもの。

### 8 聖徳寺(河内)

聖徳寺は、真宗高田派の古刹で、もとは聖徳太子像を祀る太子堂を中心とした寺。開創は鎌倉時代で、本堂は江戸時代に焼失し、寛政初頭に再建された。総ひのぎ造りの豪壮な建築。県指定文化財の聖徳太子立像を始め、聖徳太子尊像の守護太刀として今日に伝わる「宝刀小龍丸」や、蘆雪の大作「白象唐子遊戯の屏風」など多くの宝物を有する由緒ある寺院。



県指定文化財

【木造 聖徳太子立像】

時代 鎌倉期

寄木造り。胡粉で下地をつくり、朱・緑青・金泥などの彩色がされている。16歳の聖徳太子の姿を写実的に表現している。文化庁による解体修理の際胎内名が発見され、西妙の名が記されていた。造立の紀年、仏師、願主が明らかな貴重な像。



### 5 八坂神社…通称/祇園堂(神当部)

神当部の祇園堂は、伊自良氏の館跡から丑寅の方角に建ち、鬼門よけの守護神といわれている。



木造 牛頭天王像

時代 中世初期

伊自良氏の守護神と伝えられ、契印として斧と索を手に持っている。



### 6 榊八幡神社(中手)

大野郡式内9社の1つに数えられている。中世初頭の頃の地帯を支配した伊自良氏の外護のもとに社寺が造営され、古拝殿や平安時代の仏像などが県指定文化財に数多く遺存されている。

県指定文化財

【古拝殿】



時代 鎌倉期

単層四柱造り。東西の一間通りを羽目板で囲み、仏像を安置する以外は吹き放し。建物は廃材が使用されており、面取りの大きい角柱2本の他は円柱で、隅柱には唐草文様の肘木もつけられている。

県指定文化財

【木造 阿弥陀如来坐像】

時代 平安後期

像高176cm 樹木内割の手法。サビ下地漆塗で像表が磨き上げられており、幾分顔部は大き目だが、方座(裳懸座)の上に美しい姿で安置されている。



県指定文化財

【木造 多聞天王立像】

【木造 仏目天王立像】

時代 平安後期

寄木造り。像の表面を平明にすきあげる手法。伊自良氏関係の寺に安置されていたものと推定されている。





# 美山を楽しむ 歴史散歩



## 【美山の古木】

**1 真杉家のタラヨウの木(高田)**  
真杉家の旧庭園跡にある多羅葉(タラヨウ)の古木は、樹齢1000年以上といわれ、樹高は全国1位、幹圍は埼玉県慈光寺に次いで2番目。昭和49年4月に県の天然記念物に指定された。



## 【藩政時代、川との闘い】

**2 高田の御普請所跡**  
**3 品ヶ瀬の御普請所跡**  
古より美山に住む人びとは川の恩恵を受け、また一方では川の脅威と闘ってきた。藩政時代には高田区には水害防止や復旧作業などの川除普請を采配した御普請所が、品ヶ瀬区には折立から下流で起こった川の決壊や土砂流入の際に川欠普請を采配した御普請所があった。

## 【街道と渡し】

**4 瀬ヶ口の切り通し**  
この地は美濃街道の難所だった。大岩の下にある湖の主、彌(かわうそ)が村人にこの切り通しを教えたことから村名がついたといわれている。  
**5 小和清水の馬渡し跡**  
**6 朝谷の渡し跡**  
**7 朝谷島の筏留跡**  
近代的な道路や橋が登場するまで、川は流域に住む人々の交通や運搬に利用されていた。小和清水には珍しい馬渡し、朝谷には美濃街道から池田道へ通じる足羽川の渡船場が、朝谷島にはかつて池田から足羽川へ渡した筏を止めた「筏留め」があった。

## みやま源平物語

### 【平家伝説】

**19 平家壁と平家塚(赤谷)**

赤谷区の平家壁と呼ばれる切り立った険しいがけの中腹に、平家塚と呼ばれる石造りの小さな祠がある。国家有事の際には扉が開き、平糶盛が出てくるという。毎年2月19日祭礼。



**21 赤谷の地名**

赤谷という地名は、平糶盛がかぶとをぬぐと、中にたまってた血が流れ出し谷川の水を赤く染めたことからつけられたという。

**22 河内の御太子様恵みの雨**

昔平家の落人が聖徳太子の尊像を背負って河内に住みつき、平家の象徴である純粋種の赤かぶとその栽培方法を村人に伝えたと言われている。8月の日照り続きでも河内集落だけは雨が降り村人たちは御太子(聖徳太子)様の恵みの雨に感謝しながら赤かぶの種をまくという。

**23 平家が開いた集落(間戸)**

赤谷に落ちのびてきた平家の落人が、落人詮議が緩和された後、良地を求めて下降し開いた集落といわれている。

### 【源義経と美山】

**24 花山峠(計石)**

羽生地区の中央を走る美濃道(国道158号線)は、花山(坂戸)峠を経て大野市に至る。「義経記」には源義経の奥州落のくだりで登場する。織田信長との闘いに敗れた朝倉義景も、糞をもつかむ思いでこの峠を越えたが、平泉寺衆に助けを求め一族の朝倉景鏡に謀殺された。

**25 源義経の兜の前立の鏡(大宮)**

大宮の八幡神社には、源義経の兜の前立の鏡が残されている。源義経主従の奥州落のとき、熊野神社(現在は八幡神社に合祀)へ参籠した。途中猛吹雪にあい近くの民家に滞在することになった。出発のとき家人が懐を与えてくれたことを大変喜び兜の前立の鏡と剣を与え、更に七郎丸と名乗るよう許可した。



**9 烏帽子岩(蔵作)**

蔵作区を流れる足羽川の中に、高さ三間という烏帽子岩がある。出水の時、激突する水勢は高く飛沫をはね上げて流れる。

**10 大仏滝(大谷)**

**11 縁結びの岩(下吉山)**

**12 夫婦岩(河内)**

「八箇入会札山境夫婦岩」と刻まれた岩がある。天保時代、河内と隣接する現在大野市との地境争いで権利を半分ずつにしたという説もある。



**13 金倉瀬(折立)**

称名寺の古鐘が沈み、夕日が沈む頃になると、淵の中から鐘の音が聞こえるという。

## 【自然の造形】

**8 鳴滝(高田)**

「越前国名蹟考」に、「数丈の懸崖に一線の瀑布、末は千筋に分かれて糸の乱れるが如し。(中略)足羽の激流波浪岩に砕けて白玉に散らし……」とある。かつての水勢は失せたが、今も変わらず「月雪の時花紅葉のをりにふれて実に絶勝の景地」。1677年(建宝5年)の造立と伝える不動明王が安置されている。





【 鉱物 と 恐 竜 】

- 16 赤谷鉱山跡**  
かつて金米糖石とも呼ばれる。世界でも有名な自然鉱物が採掘されていた。
- 17 小当見金山跡**  
昔は良質の金が多量に産出し、大阪造幣局で採用された時もあるそうだ。昭和12年頃まで金山で採掘していた。
- 18 アスワテドリリュウ発掘(品ヶ瀬)**  
昭和41年、手取層群の上新橋付近の境寺互層中から世界的にも貴重な、キノボリトカゲ類の化石が発見され、地質古生物学者、鹿間時夫博士によりアスワテドリリュウと名付けられた。

【 みやま の 霊 水 】

- 14 小和清水**  
弘法大師がこの地を訪れたとき、村人に「水をください」と頼むと、昔から水不足で新しい水がなく、家の人が米をといだ水をなんとか差し出すのを気の毒に思い、杖で土手をつくると水が湧いたという。
- 15 薬師鉱泉跡(上薬師)**  
元禄時代には、湯治客で賑わった。今は薬師神社本殿の横から、水が湧き出ている。

信仰の里美山

【 顕 如 上 人 】

- 25 血染めの名号(上吉山)**  
上吉山の宮庭遺跡には三つの名号がある。六字名号は蓮如筆、七字名号は顕如筆。十字名号には石山本願寺の顕如上人の影武者として追隨し、十字の名号を上人からいただいたという伝承がある。又、九字名号は一向一揆の軍旗として使用した血染めの名号として知られ、蓮如上人、顕如上人の名号とともに御堂に安置されている。
- 27 顕如上人のお礼文(芦見)**  
天成3年、金森長近が一向一揆を全滅する方針を出した。芦見の本願寺門徒には「高田派の門徒になったら許す」と伝えた。折立称名寺の門徒になることを誓い許された村人たちが、ひそかに石山本願寺に兵糧を送り続けた。大谷区の浄願寺にはそのときの顕如上人のお礼文が残る。

【 泰 澄 大 師 】

- 29 泰澄開山の飯降山(南野津又)**  
飯降山は養老年間に泰澄大師によって開山されたといわれている。

【 上 味 見 と 伊 自 良 氏 】

- 30 伊自良氏の館跡(中手)**  
軍記物語「太平記」にも登場し、南北朝時代の戦乱を生きた伊自良氏。初代は、八田知家の二男、伊自良有知。八田知家は源義朝の十男で義経の弟といわれ、時の將軍、源頼朝の腹心として活躍をしたという。伊自良有知は承久の乱の勲功で、美濃国伊自良の地を開き、その後美濃国から越前小山庄に入り、鎌倉時代には北条氏の地頭代として地頭請に成功、1328年には伊自良知綱が遂に小山庄地頭職につき、妹見郷中手に館を構えた。伊自良氏はこうして関東から岐阜、越前大野を経て、上味見地区の中手に拠点を移し、江戸時代末までこの一帯を支配した豪族。曹洞宗の大道場宝慶寺をはじめ、近世、近代にいたるまで永平寺や曹源寺、仏母寺などの再建にも深く関わった。



【 蓮 如 上 人 】

- 26 田尻道場と山下家(田尻)**  
田尻道場と田尻区の下山家には「南元阿弥陀仏」という蓮如上人真筆の六字名号が伝承されている。
- 30 蓮如のかくれ岩(下吉山)**  
蓮如上人が天台宗からの迫害を受け、下吉山へ逃れてきた際、老婆が上人を大きな岩穴へ案内した。老婆はわらじを逆にはいて毎朝食事を送り届けたため、追手に発見されずに済み、上人は村を離れたときお礼にと老婆へ6号名号を渡した。あるとき、どうしても年貢が納められず東郷の長者に買入れし借金をしたことがあった。ところが長者は「お金はいつでもよい、夢のお告げで仏様が下吉山へ帰りたいと申されるので迎えて来てほしい」と伝えてきた。昔は畳が42枚敷ける広さだったこの岩穴も、明治の濃尾地震の際に大部分破壊され、今は12畳ほどの広さ。

みやま偉人物語

【 岡 倉 天 心 】

- 31 岡倉天心のふるさと(籠谷)**  
日本美術院を育てた岡倉天心の父は籠谷の中井家の出身。天心も子供の頃父とともに籠谷を訪れた。中井家には天心一族の手紙や葉書が残る。



【 い に し え 物 語 】

- 36 立岩まと場(横越)**
- 【 縄 文 時 代 の 美 山 】**
- 37 西中遺跡**

【 民 話 】

- 38 籠谷と仁位のむらざかい(籠谷)**  
昔、籠谷は戸数が少なく放置された土地があった。仁位はこの土地に目をつけ入り込み争いになった。そこで両集落は夜明けとともにそれぞれの集落を出発し出会ったところを村境にしようと約束した。翌朝籠谷の者が寝ていると仁位の村人が戸口までやって来て、ここが境だと叫んだ。驚いた籠谷の村人は裸のまま外に飛び出し、仁位の村人を押しつつかれて峠近くの谷川までがんばった。ふんどしをひきずり争ったといわれる曲がりくねった所は禪まがりと呼ばれている。



みやま戦国時代物語

- 32 小宇坂島の城跡**  
小宇坂島には「小城跡」と「石のから戸」が今も残る。
- 33 小宇坂の城跡**  
三方を蛇行しながら流れる足羽川に囲まれた小宇坂区の西側丘陵上に城跡がある。堀切りの跡や、やぐら跡も残る。朝倉氏時代の城跡ではないかといわれている。
- 【 朝 倉 家 】**
- 34 若宮淵・乳母ヶ淵(市波)**  
足羽川の若宮淵には、朝倉義景が織田信長に敗れた際、義景の遺児を抱えた乳母が城から逃れる途中、中流で敵に行く手を阻まれ、着着が敵手に落ちるのを恐れてこの淵に沈め、少し離れた下流に乳母も身を投じたという話が残る。
- 35 朝倉氏家臣の屋敷跡(縫原)**  
美山町には朝倉氏家臣の屋敷跡や伝説、地名が多く残る。縫原地区にも朝倉氏家臣の大窪屋敷跡と五十嵐屋敷跡がある。





# 笑顔がふくらむ 美山の「魅力」!



## 美山を味わう

### ④ 鳳龍会(東河原区)

東河原区に伝わる雅楽を、八幡神社の祭礼と称名寺の報恩講に奉納している。



### ⑤ 伊自良祭り(上味見地区)

後醍醐天皇と足利尊氏に命運をかけた地元の豪族、伊自良氏の遺徳を偲び、豊かな歴史の上味見地区を活性化につなげようと始まった手作りの祭り。



### ② 「鉾出し」(東河原)

東河原区の権八幡神社宵祭、三韓征伐の勝利を記念した神事として、毎年9月14日夜に奉納されている。若者が荒々しく鉾(青竹)を持って社殿を回る勇壮な神事で、500年以上の伝統を誇る。



### ③ 願人坊踊り(西河原)

江戸時代から伝わる祭礼に催される踊りで、神を接待しおなぐさめしたものとされる珍しい踊り。1つ1つに激しさが加わったこっけいなしぐさの連続と振りの細かさが特長。昭和56年、区民の手で34年ぶりに復活した。



### 【祭り】

### ① じじぐれ祭り(河内) 県指定無形文化財

河内区の住吉神社で毎年5月5日に行われる。上部中央にご神体としてショウブ、コブシ、ヤマノキの花を差し、周囲にフナノ枝をさしてシデの枝で仕上げた「紫みこし」が特徴で、1000年余りの伝統を誇る。





**15 そばクッキー・そばシフォンケーキ**

美山町そば加工研究会が、町特産のそば粉を使用し開発した。無添加でヘルシーな商品として好まれている。



**16 かぶと虫**

美山かぶと普及会が木材のおがくずを利用し生育。かぶと虫の幼虫セットを郵便局の「ふるさとパック」で、全国に届けている。



**17 足羽杉**

町内は良質な杉の産地。昭和63年より「足羽杉」のブランド名で取り引きされるようになり、良質な木材として高い需要を誇る。



**18 乃もっ茶 そば茶**



美山・池田・今庄町のそば産地で共同開発された。厳選された茶葉とそばの実をブレンドし、天然水で抽出したもの。そばの香ばしさが、まろやかなお茶。

**【特産品】**

**11 みやま長寿そば**

そばの里美山が誇るそば。清らかな水と自然に育まれた地元産のそば粉から作られる。



**12 河内の赤かぶら**

平家の落人が種と栽培技術を伝えたと言われ、800年以上の歴史がある。色つや、形、味ともに良く、特に鮮やかな朱色が人気。



**13 パールマッシュ・ヒラタケ**

パールマッシュは、白しめじ別名「森の真珠」。笠の部分が白く真珠を思わせることからその名がついた。栄養価が高く低カロリーで、美山でしか作れないキノコ。



**14 地酒「黎明」**

町産の酒米「美山錦」と「美山の水」を用いて作った地酒。町在住の豊田画伯の代表作「黎明」が命名され、ラベルに使用されている。



**【イベント】**

**6 みやま木ごころまつり**

毎年8月初旬に開催される一大イベント。丸太きり大会、踊りコンテスト、魚つかみ、歌謡ショーなどで、真夏の一日が盛り上がる。



**7 そばまつりinみやま**

毎年秋に、みやま木ごころ文化の郷イベント広場で開催。町内各地区から出店した地元産の手打ちそばをはじめ、町外のそばも振舞われる。



**8 文化祭**

毎年10月下旬から11月3日の文化の日まで開催。町民の多彩な催しが繰り広げられ、芸術の秋を楽しむ。



**9 町民体育大会**

毎年秋にアンデマンド広場で開催。町内6地区が競い合い、熱戦が繰り広げられる。来場者全員で「みんなでジャンケン」などもある。



**10 美山ふるさとスケッチ大賞**

名誉町民の豊田画伯の業績をたたえ、ふるさと美山の自然の偉大さを再発見してもらおうと、毎年5月に開催。画伯の近作展や自然の中の指導も行われる。





美山で暮らす  
美山で出会う  
美山つてこんな町



いつも美山でゆったり気分

⑤ 楽しく楽く亭(市波)

古い民家のイメージを再現した合掌造りの建物で、ジャンボいろりや温水プール、ゲートボール場を備える。高齢者の健康増進、ふれあい、憩いの場として利用されている。



⑥ みやま木ごころ文化の郷(朝谷島)

まちの文化の拠点施設として落成。「町民交流館」「町立図書館」「文化ホール」「イベント広場」などを併設した複合施設。



③ みやま長寿そば道場「てっつおさん亭」(瀬ヶ口)

自然豊かな美山で育った「そば」とおいしい「水」から生まれる、素朴な味わい「みやま長寿そば」。そば道場で、そば打ち体験ができる。



④ 美山そば工房「木ごころ」(瀬ヶ口)

小和清水石を使った電動石うすや、オープンなどの機器を備え、そばを引いたり、そばクッキー等を創る施設。



① 美山町役場(朝谷島)

町は、町民と身近にふれあう窓口業務から人々の生の声を聞いて、町の現状を直視。町長をはじめ職員たちの力を結集して町の発展に努めている。



② 森林温泉「みらくる亭」(市波)

森林浴が楽しめ、効能は動脈硬化。地下1001メートルから湧き出る天然泉は、無色透明でにおいもなく、飲用としても特効あるナトリウム・カルシウム硫酸塩温泉。





**14 トレーニングセンター(境寺)**

町民が手軽に利用できる屋内スポーツ施設。町民の健康増進の拠点。



**15 B & G海洋センター(朝谷島)**

青少年健全育成を図るためB & G財団が建設し、後に町へ譲渡された。屋根付プールで夏期に利用、町民の健康増進、体力向上に役立てられている。



**16 美山デイホーム「和貴苑」(市波)**

町社会福祉協議会事務局、機能回復訓練室、浴室など完備。



**17 ログウッド・ミヤマ(境寺)**

足羽杉を丸太材に加工し、町の林業振興の一翼を担う。ログハウス、駐在所やキャンプ場のコテージなど、広く利用されている。



**10 美山観光ターミナル(境寺)**

国道158号線沿いで、地元産杉を使用した木造のぬくもりがある建物。JR美山駅にあり、町の特産品や施設をPRするコーナーを備えた案内所で待合室としても利用されている。



**11 観光ガイドハウス「マルコポーロ」(市波)**

旧国道158号線沿いに、カワイイ赤い建物が目に入ります。美山を訪れる観光客の休憩や、町の情報発信の場として休憩室、ビデオコーナー等もあり、観光スポットを紹介している。



**12 町営テニスコート「ウィンク」(市波)**

旧国道158号線沿いの、観光ガイドハウス「マルコポーロ」に隣接している。全天候型の4面のコートがある。夜間照明もあり、町内外の人がテニスを楽しめる。



**13 みやま保育園 併設子育て支援センター(境寺)**

17年6月に町内の3保育所を統合し、乳児保育、延長保育、土曜保育などを実施。併設の子育て支援センターは、親子交流の場や育児相談などを行っている。



**7 伊自良の里(中手)**

伊自良の里は、豊かな歴史と文化の宝庫。伊自良氏800年の貴重な歴史資料を多数展示した「赤心資料館」、伊自良氏の館をイメージ復元した「伊自良氏館」、日本には数少ない脳卒中に効能があるという天然温泉「伊自良温泉」がある。

赤心資料館



伊自良氏館



伊自良温泉



**8 野外活動施設「リズムの森」(西中)**

芦見川流域にあり、バーベキューやアスレチック、コテージ、クラススキー場など多彩な施設を備え、自然に親しみ楽しく遊べるキャンプ場。



**9 アンデパンダン広場(縫原)**

町の総合運動公園として、町民に親しまれる大型総合運動場。陸上競技場や野球場の他に、全天候型の屋根付多目的コートのアイアイドームがあり、テニスやゲートボールも楽しめる。





# 美山町歴代役職の変遷

年	町村長	助役	収入役	教育長	議長	副議長
昭和30年	職務未定 豊田大門 中山研次		初代 南部俊雄			
31年	初代 豊田大門	初代 中山研次			初代 井上重份	初代 三ツ井市松
32年				初代 佐々木規夫	2代 森下角善	2代 山本善左エ門
33年					3代 真杉文右衛門	3代 宮本正一
34年	2代 泉田和志男	2代 太田昌	初代 島田政雄			
35年				2代 渡辺善之	4代 中村惣市	4代 上郡彌左エ門
36年					5代 藤本勲威	5代 石見広
37年					6代 小森勲	6代 森忠義樹
38年					7代 上郡彌左エ門	7代 水平仁太郎
39年				3代 前川権兵衛	8代 金森博	8代 笹島宇右エ門
40年					9代 宮本正一	9代 三ツ井安男
41年	3代 真杉文右衛門	3代 島田政雄	2代 門清隆	4代 貴志勇	10代 上郡彌左エ門	10代 井上善雄
42年				5代 田上幸夫	11代 今村重治	11代 山本行雄
43年					12代 清水良雄	12代 竹内定男
44年					13代 金森博	13代 松田正治
45年					14代 山本行雄	14代 塚倉實恵
46年				6代 広瀬六郎右工門	15代 竹内定男	15代 藤田海三
47年		4代 門清隆	3代 山下重一		16代 今村重治	16代 山下忠男
48年				7代 安田善昭	17代 清水良雄	17代 小林幸男
49年					18代 杉下昇	18代 土田正一
50年					19代 山下忠男	19代 川崎秀弘
51年		5代 山下重一	4代 寺口義正	8代 清水清一	20代 藤田海三	20代 木ノ内俊昭
52年					21代 塚倉實恵	21代 磯松巖
53年	4代 上郡彌左エ門				22代 土田正一	22代 山口久
54年					23代 塚倉實恵	23代 山田弘
55年					24代 横山俊昭	24代 山田弘
56年		6代 寺口義正	5代 村田一男		25代 土田正一	24代 桜谷幸生
57年					26代 木ノ内俊昭	25代 田中昭一
58年					27代 藤田海三	26代 芝田敬
59年				9代 山下五生	28代 杉下昇	27代 村田高志
60年					29代 山田弘	28代 前川清輝
61年					30代 田中昭一	29代 小竹原悟
62年		7代 藤田海三	6代 中川長三郎		31代 三ツ井安男	30代 山田甚二郎
63年	5代 貴志精義				32代 芝田敬	31代 前田正一
平成元年					33代 小竹原悟	32代 土田道德
2年						33代 山内茂信
3年		8代 中川長三郎	7代 豊田忠士	10代 多田晴浪	34代 村田高志	34代 竹山丈夫
4年					35代 山田甚二郎	35代 辻本高矢
5年					36代 山田甚二郎	36代 辻本高矢
6年						
7年				11代 北山仁丸	37代 木ノ内俊昭	37代 山口照榮
8年	6代 藤田海三	9代 豊田忠士	8代 横田政大			
9年					38代 小森精二	38代 木賣廣
10年		10代 松井慶隆		12代 中山武夫	39代 清水清一	39代 今村辰和
11年					40代 木賣廣	40代 横山嘉信
12年		11代 横田政夫	助役兼掌 横田政夫		41代 山内茂信	41代 竹下一生
13年						
14年				13代 前川勝己	42代 横山嘉信	42代 高瀬信夫
15年						
16年	7代 有塚達郎	12代 石田一司	石田一司		43代 今村辰和	43代 江川正生
17年					44代 高瀬信夫	44代 島田義信
18年						



# 暮ら し 美 味 しい 美 山 郷



## 町名と町章の由来

足羽川の清流に映える豊かな緑、四季折々にあざやかな変化を示す美しい自然。これを誇りとして「“美しい山々”美山村」と決定。その後の町制施行によって「美山町」となりました。

町章は、6カ村合併のときに応募された作品の中から採用されたものです。「み」と「山」を重ねて丸く図案化し、住民の団結と町の円満な発展を願って定められました。



## 町の木 杉

町は9割が山林で、良質な杉材の産地です。昭和63年足羽川流域の杉を「足羽杉」と命名し、ブランド化されています。



## 町の花 ミヤマツツジ

町の花に指定されているミヤマツツジ。花は淡い紅色で5月頃開花します。

「ミヤマ」の地名を含み、町の花として町民に親しまれています。町内の山間地にわずかに散在する貴重な花です。

## 位置・地勢

面積 138km<sup>2</sup>

人口 5,108人（平成18年1月31日現在）


美山町は京都福井市の東部にあり、東は大野市、南は池田町、北は永平寺町および上志比村とそれぞれ接しています。

総面積は約138km<sup>2</sup>で、飯降山、白樺山、剣ヶ岳などの500～800m級の山々に囲まれています。

岐阜県境の冠山に源を発した足羽川は、池田町を縦貫し美山町の中心部で大きな弧を描きながら、上味見川、羽生川、芦見川と合流し、福井市を経て日本海に注いでいます。

気象は、年間平均気温摂氏15.0℃、年間平均降水量は2,300～3,000mmで12月から3月にかけての降雪期間には多い時で1.0～2.0mの積雪が見られます。





## 発刊のあいさつ

昭和30年2月11日、郡境を越えて下宇坂、芦見、羽生、上味見、下味見、上宇坂の旧6カ村が合併して美山村が誕生し、同40年の町制の施行を経て、美山町は半世紀の歴史を築き上げてまいりました。今年2月1日には福井市、越廼村、清水町と合併し、「新生福井市」としてスタートできますことは、皆様の温かいご支援、ご理解の賜物と、改めまして感謝申し上げます。

さて、美山町には自然環境、歴史と文化など次代に引き継がねばならない財産があります。これまで50年の間には、先人の方々の大変なご労苦と、地域を取りまとめてきた、たゆまぬ努力がありました。新生福井市の一翼を担う一方、美山町としての歴史にピリオドを打たねばならないことに、一抹の寂しさは漂いますが、将来を見すえての合併という大事業を成し遂げることには大きな感慨を覚えます。

郷土への誇りを込めたこの一冊が、みなさまの未来への糧としてお手元に置いていただけるなら幸甚の至りです。本誌作成にあたり、編集委員の方々をはじめ、ご協力を賜りました関係各位に心よりお礼を申し上げ、発刊のごあいさつとさせていただきます。

平成18年1月

美山町長 有塚達郎



---

## 美山町50周年記念誌編集委員会

---

### [編集委員長]

---

美山町助役……………石田 一司

### [編集委員]

---

美山町議会議長……………高瀬 信夫	羽生地区区長会長……………小林 正栄
美山町教育長……………前川 勝己	上味見地区区長会長……………松本 義則
美山町文化協会長……………花弥 清一	下味見地区区長会長……………豊田 忠克
下宇坂地区区長会長……………小竹原武敏	上宇坂地区区長会長……………橋詰 文夫
芦見地区区長会長……………竹田 昭臣	

### [事務局]

---

美山町市町村合併推進室

室長……………杉下 則秀

室員……………藤田 直美



[美山町50周年記念誌]

# 美山50年の あゆみ

発行 福井県美山町

発行日 平成18年1月

【編集】

美山町市町村合併推進室

〒910-2392 福井県足羽郡美山町朝谷島7-1

【企画・制作】

創文堂印刷株式会社